保育日誌の中より

智　江　子

毎年紀元節も過ぎる頃になると、やがて一年生にならうとする子供達へ、せめてもの贈物として、アルバムの用意に忙しい幾日かを過す。折にふれては寫しとめて置いた寫眞の數々を取り出して、此れにし樣か、あれを入れ樣かと眺めて居れば、まざ〳〵と其の頃が思ひ出されて來る。忙しかつた事、色々工夫したり、研究した事等も思ひ起されて、又其の折々の保育日誌を讀み返して見る事もある。其の中の一二を寫眞に添へて、……

＊　＊　＊

五月一日（金曜） 鯉幟を立てて

「先生まだ立てられないの」

「えゝ今すぐね、此の口の所へ針金を入れて」子供達は此の鯉幟りが空高く泳ぐ日を、どんなに樂しみにして居る事であらう。縫合せて居る傍に來て矢の催促だ。

「さあー出來ましたよ。立てませう」と言へば「ワァーッ」と喚聲を擧げて運動場に飛出して行く。初めて作つた此の鯉幟り、よく泳ぐかしら……と少し不安な氣がする、長い竿に鯉を付けてジャングルジムに立てると、「ザーッ」と勢ひよく眞鯉、緋鯉が五月の空に躍つた。

「やあー泳いだ〳〵、高いなあ」と我先にとジャングルに昇つて振り仰ぐ其の嬉し相な顏、顏。

私も共にホッとして見上げた。五月の風を一ぱいにはらんで、鯉は又一しきり高く〳〵泳いで行く。丁度子供達を祝福するかの樣に、……

註　此の鯉幟はキャラコ地。（看板に用ひる糊つきキャラコ、キャラコ巾一尺八錢）を眞鯉は一丈八尺、緋鯉は一丈四尺求めて、片身づゝにして適當に線を書き入れる。床の上に蓆を敷き其の上に擴げて、先づ墨でたぎり畫の樣に線を書かせ、乾いた所でポスターカラー及墨で色を着けさせる。胸鰭、腹鰭は別に端切れで各々二枚づゝ作つて置き、兩面をミシンで縫合せる時に挾んで縫ふ。口と尾は縫ひ合せずに置き、口には太い針金を輪にして入れ、絲でとぢる。布地に糊がきいて居るのでポスターカラーでもにじまず容易に出來る。

六月二十五日（木曜） お店開き

「何の御店を作りませうか」と御相談會をしたのはたしか五月の十日頃であつた。皆の希望で八百や、魚や玩具やの三軒にきまり、三十人の幼兒がそれぞれ十人づゝに別れて品物作りをする事になつた。其の間の何と忙しかつた事よ……、今日はすつかり出來上つていよ〳〵お店開きだ。

「此の漬菜一つ下さいな」

「此の蟹を一皿下さいな」と次から次へと詰めかけて來るお客樣に、白鉢卷の番頭さんは大忙がし。お野菜もお魚も、まるで羽根が生えた樣に賣れて行く。

荷を一本机に置いてはどうして作らせ樣かと工夫をしたり、鮭の切身を買つて來て寫生をしたりして隨分苦心した此のお店、お蔭で幼兒は勿論、先生まで、八百や、魚やについて大分委(くわ)し

くなつた。

育てる事によつて育てられる事をつくづく感謝する。

註　お店、幼兒に品物を作らせる傍ら、二間の黑板の所を利用し店作りを始める。先づ模造紙にお店の中の畫を書かせて後に貼り、二寸角の材木で柱や屋根の横木等を作つて段ボールで屋根を張る。机の上に積木と材木で品物をのせる斜の臺を作り、臺の下は、八百やは木目に、魚やはタイルの樣に書いた白ボールで圍ふ。看板や日徐をつけて仕上げる。

品物（八百やの中の一例）

大根、蕪、人蔘、龜井戸、改良半紙に葉にする部分だけ（人蔘は下も）クレオンで書き下は、示を中に入れて絲で適當にくゝる。

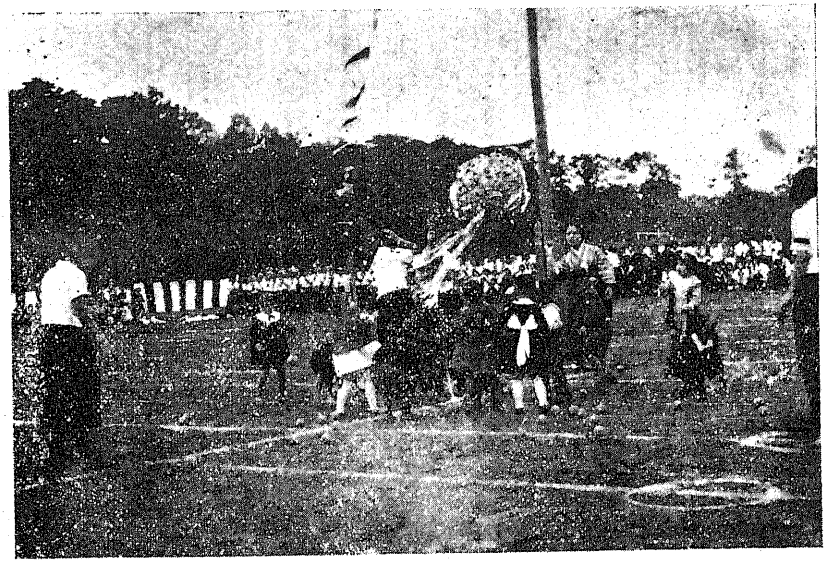
葱　芯に新聞紙を入れて白模造紙を卷き、上の方は綠色に塗つて切れ目を入れる。机の上に又別の紙を細く二つに折り白い方だけ挾む樣にして重ねる。根は白絲で作る。

トマト、玉葱　改良半紙に色を著けて綿を入れて包み、トマトの窪んだ所は絲で縫とめる樣にする。

白菜、キャベツ、新聞紙を芯にして、半紙に色を着けてよく揉み、一枚〳〵上へ被せて行く。

筍　は同じく新聞紙で芯を作り、模造紙に皮を書いて、段々に下へと重ねる。

漬菜、ほうれん草、同じく半紙に色を着け、根の所で適ぎ絲でくゝる、少し集めて藁で束ねると感じが出る。



茄子　胡瓜　蠶豆　南瓜、林檎、苺其の他の果物類　は遊びに用ひて丈夫な樣に新聞粘土で作る。始めに新聞紙を極く細に切つて水に漬け、搔きまぜてドロ〳〵になつてから布海苔を煮て入れる。次に粉粘土を徐々に混ぜて、普通の粘土位の硬さにして用ひる。出來たのはよく乾してポスターカラーで二回位色を塗る。林檎や櫻桃の柄は、乾き切らない中に紙縒を入れて置くと感じが出る。

品物（魚やの一例）

鯛、鯖、鰹、比目魚、鯨等の大物は畫用紙で片面づゝ作り、中に紙屑又は綿を入れて縫合せる。

蟹、切身物は表を畫用紙　裏は模造紙で作り、中に綿を入れて圍りを糊ではり合せる。

竹輪　改良半紙に色を著け、新聞紙を卷いた物に被せて、兩端を中に窪ませる。

蒲鉾、有合せの板を適當に切り、新聞紙を芯にして上に綿も被せ、模造紙で包んで板に糊づけする。兩端も模造紙で貼る。

お刺身、榮螺、蛤、等は新聞粘土で作り色を塗る。

出來上つた品は　或はお皿に盛り　或は箱に並べたりして、經木に値段を書いて立てる。

十一月一日（日曜）　久壽玉割り

「もういくつ寢るこ運動會」　こ指折り樂しんで居た今日の此の日、幸ひお天氣もよい。

「さあ私が走るのだ」「私が遊戯をするからお母樣見て」こ、

子供達はあつぱれォリンピックに出る選手の樣な心意氣で居る。

プログラムは進められていよ〳〵久壽玉の番になつた。ごうぞよく割れます樣に、こ思はず祈つてしまふ。工合よく行かず隨分苦心させられた久壽玉であるから……

黄こ桃色の花に飾られた久壽玉は、芝生の中央に立てられて、ひら〳〵こリボンが風になびいて居る。やがて笛の合圖で子供達の手にした紅白の毬は亂れ飛び玉は右に、左に、大きく搖れる。一分。二分。

「アーッ　割れた」。「バンザーイ」の聲こ共に起る嵐の樣な拍手。

中から出た五色のテープはキラ〳〵こ輝いて、色こりぐ〳〵の風船が遠く武藏野の空に消えて行く。

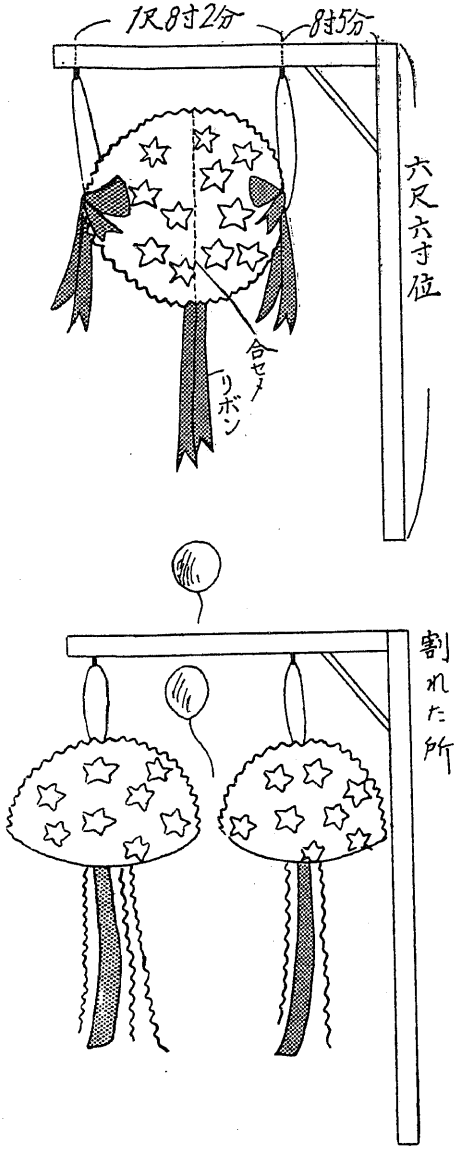
註　久壽玉割り、紅白の團體競技で在來の鈴割りを一層華やかにこ工夫したもの。

竹で編んだ直徑一尺七寸五分深さ七寸五分の半圓の籠を四個用意して、美濃紙で下貼りを行ひ、更に綠

の色紙で全體を貼る。

黄色と桃色の色紙（九寸角）で蓮花を折り黄には赤、桃色には黄の芯を着けて、各々百四十個づゝ作る。そして綠で貼つた籠の上に二個には黄色の花を、他の二個には桃色の花をそくひ糊でしつかり着ける。

中側に五色の紙テープ及び、クリスマスツリーに用ひる色モールを適當につるし、風船又は鳩を入れて、籠をつるした際下側になる方で三個所だけ、一寸五分巾の色紙で貼り合せる。



高さ六尺六寸位の棒に、三尺の横木を付け玉の直徑よりやゝ廣く間を置いて釘を打ち、兩側から玉をつるす。そしてクレープペーパー二色で兩側及び下に、リボン飾りを着けて仕上げる。これに紅白の毬を打ちつけて、早く割れた方を勝とする。